

有機培地を用いたトマト養液栽培においてはセル苗直接定植が可能である

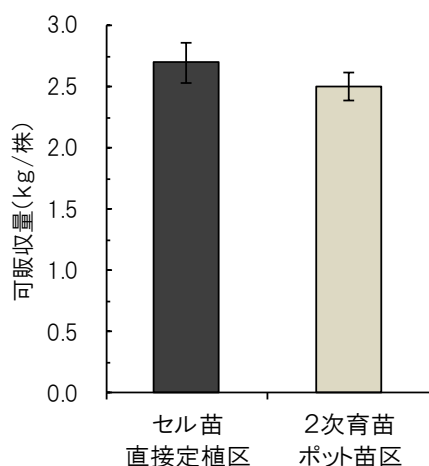
1 技術の要約

ヤシガラ等の有機培地を用いたトマト養液栽培では、50穴～72穴のセル成型苗を適期に定植することで、育苗や定植の省力化が図られるとともに、慣行のポット苗と同等の収量が得られます。

2 技術の内容

ヤシガラ等の有機培地を用いたトマト養液栽培では、50穴～72穴のセル成型苗を2次育苗せずに直接定植（セル苗直接定植）することで、ポットで2次育苗し、第1果房開花前後の大苗を用いる慣行育苗法と同等の収量が得られます。また、セル苗直接定植により、ポット苗と比較して定植作業時間が50%程度短縮し、育苗に必要な培土量も大幅に削減できます。

定植に適したセル苗の大きさは、50穴セルトレイで4.5～5.0葉、72穴セルトレイで3.5葉であり、野菜花き試験場（塩尻市、標高750m）における5月中旬播種の場合、定植適期は50穴セルトレイで播種後約25日～4週間、72穴セルトレイで約3週間となります。



セル苗直接定植と2次育苗ポット苗区
のトマト収量比較（品種：りんか409）
（平成24年～27年までの5作の
栽培試験の平均）

定植時間 (秒/株)		作業時間 短縮程度 (%)
セル苗 直接定植区	ポット苗 2次育苗区	
11.6	22.4	47.9

4回の定植の平均、苗の移動時間等は含まない

	必要 培地量 L/10a	育苗培土 コスト 千円/10a	育苗培土 削減量 千円/10a
50穴セルトレイ	195	19.1	124.5
10.5cmポリポット	1500	143.7	

育苗培土「与作N25」、95.8円/L 栽植密度：3000株/10a